

テーマ

農業と食を通して、 自然の豊かさを感じ取ろう

釧路市立山花小中学校

校長 伊藤 賢 次

担当者 岩 井 俊 昌

1. 本校ESDの特徴

本校は、釧路市の郊外に位置し、背後にある学校林では、ウグイスやカッコウなどをはじめとする野鳥のさえずりやセミの鳴き声が響くといった自然に囲まれた環境の中にある。

隣接する山花公園には釧路市動物園があり、小学生は動物たちの獣舎の掃除やえさやりの準備など、動物園をフィールドとした学習に取り組み、命を育てることの大切さや命の尊さ、環境への配慮などを学んでいる。また、校地内には16a(40m四方)の農園を備え、子どもたちに「持続可能な社会の担い手」となるための資質・能力を培うためのESD活動に取り組んでいる。

以上の特徴を生かし、本年は「農業と食を通して、自然の豊かさを感じ取ろう～えっ?? 僕たち私たちの活動が地球環境を守ることに繋がって本当なの??～」を活動のテーマとした。以下の4点をねらいとし、活動に取り組んだ。

- ① 次の世代にも豊かな自然の恵みを受け継いでいくために、作物を育て、循環させていくことで「持続可能な社会の担い手」としての考え方や、知識、技能を身につける。
- ② 栽培学習や3R活動で学んだこと、感じた事に付随する疑問点を各教科に横断的に関連させ、調べ、まとめることで新たな知識を深化させる。
- ③ 収穫祭を通し、食の喜びとお世話になった人々に感謝の気持ちを表現する。
- ④ 地球環境を保全しようとする知識と心情と態度を養う。

2. 活動・全体計画

右図は小中9学年を見据えた計画である。この他に小学校のみで行う、動物園学習も並行しておこなっている。

プロジェクト名 食を通して、地球環境のピンチを考え救おうぜ!! (仮) 1年目
山花ESD目標 農業と食を通して、自然の豊かさを感じ取ろう

～えっ??僕たち私たちの活動が地球環境を守ることに繋がって本当なの??～

発表 OESDの取り組み ×栽培学習

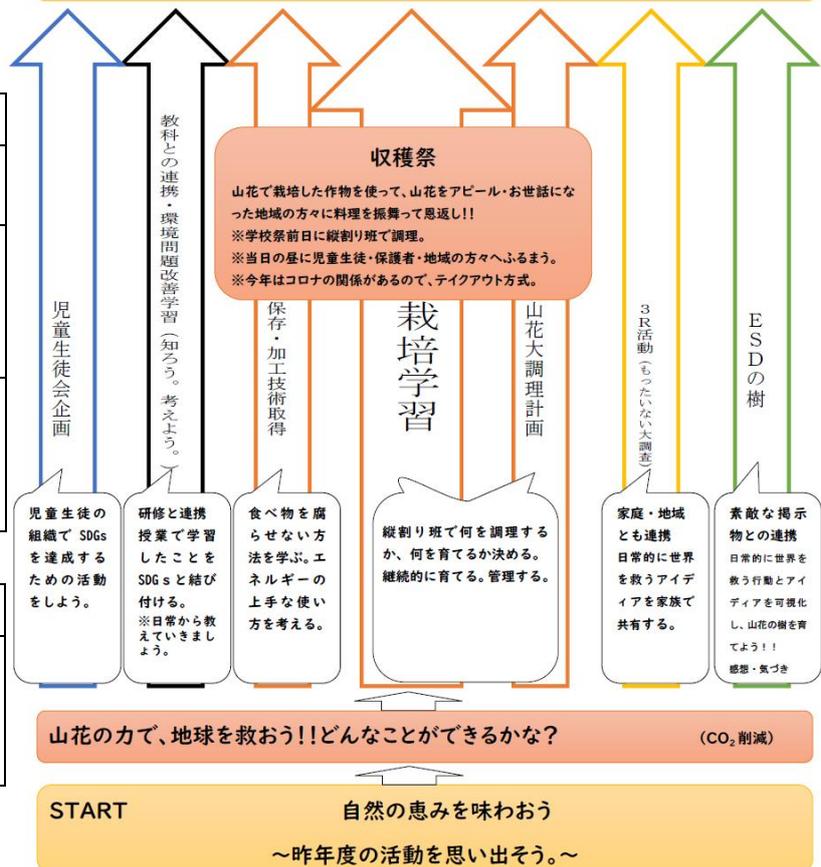
SDGsを少しでも達成するために自分たちでできること、学校でできること、世界でできることって何だろう?次年度のテーマ(方向性)決定。

GOAL 自然って大切だと心から思える人になる

学年毎の目標設定

		目標
小学校	低学年	自然に親しもう
	中学年	栽培活動と3R活動を通し、環境改善の見方を養おう。
	高学年	栽培活動と作物保存加工を通し、環境改善の見方を養おう。

		目標
中学校		山花の良さを生かし、地球環境を保全していける人になろう。



3. 活動事例

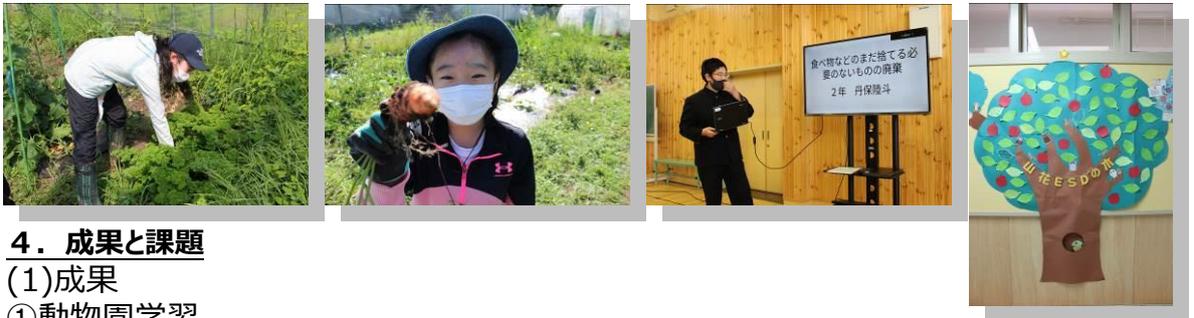
(1)動物園学習(小学校)

小学校では隣接する釧路市動物園において、年3回の動物園学習を行った。学年ごとに担当する動物を決め、えさの仕込み、獣舎の清掃、給餌…と一連の作業を体験する。その中で、命の営みに触れ、かけがえのない生命の尊さを学ぶことができた。



(2)ESD 学習(小学校・中学校)

子どもたちは環境問題や食料事情・フードロスなどの課題を設定し、栽培活動や3R 学習や作物保存加工学習を通し、課題解決学習を行った。体験から疑問をもち、必要なことを主体的に調べ、トライ&エラーを繰り返しながら、解決方法の実証に近づくことができた。



4. 成果と課題

(1)成果

①動物園学習

小学校の6年間でほぼ全ての動物と関わることにより、飼育員の方々の日常業務を知るだけでなく、その苦労や仕事における工夫などについても体験を通じて深く知ることができるようになった。そして、単なる一般来場客としての見方とは違う観点で動物たちへの思いをもつようになり、命あるものへの畏敬の念や命の大切さに気付くことができるようになってきた。

②ESD 学習

学習を自分の言葉でまとめ発表することで、自分事として環境問題等について考え、生活を改善しようとしていた。また、生活科や総合的な学習の時間を理科や社会、道徳などに関連させて取り組むことができた。ESD の樹では学習したことに対する感想や解決方法を書き、掲示していくことで学習を深めることができた。さらに、本校の ESD 学習は地域の協力がないと成り立たないこともあり、収穫祭には地域の方を招いて開催するなど、地域とのつながりを高め、感謝の気持ちを育むこともできた。児童生徒会活動で『ユニセフ募金』や『もったいないを減らそう』といった活動を児童生徒の発想で行うこともできた。

(2)課題

①動物園学習

充実していた。

②ESD 学習

小中併置校の利点を活かし、ESD や SDGS の視点を中核に据えた9年間の教育課程を構築していくことが必要である。また、自分事から周囲とのつながり、後には、世界にも目を向けた活動へと発展していく数年単位での学習活動を構築していくことも必要である。

今後は、授業の時間だけでなく、子どもたちが生活の中で生かせるような教育活動を展開し、これらの活動を通し、『SDGs を少しでも達成するために自分たちでできること、学校でできること、世界でできることって何だろう』と疑問を持ち、実践できる子どもたちの育成に力を注いでいきたい。

